

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 児童生徒の学力・学習状況の把握と学習指導の改善を図る。
- (2) 調査対象 土岐市内全小学校8校の第6学年児童（416人）
土岐市内全中学校6校の第3学年生徒（432人）
- (3) 調査内容 学力に関する調査（国語、算数・数学、英語）。生活と学習に関する調査
※本調査で明らかにできるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分
や学校における教育活動の一側面についてである。
- (4) 調査日 国語、算数・数学：令和8年4月23日（木）
英語：令和8年4月20日（月）から4月24日（金）のいずれかの日

2 土岐市の現状

(1) 学力について

※全国と市の正答率の比較・中学校英語はIRT スコアの比較

（ ◎：上回る ○：ほぼ同じ □：下回る ）

国語		小学校	中学校
全体		○	○
学習指導 要領に関 すること	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	□	○
	(2) 情報の扱い方に関する事項	□	○
	(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	A 話すこと・聞くこと	○	○
	B 書くこと	□	○
	C 読むこと	○	○

算数・数学		小学校	中学校
全体		○	○
学習指導 要領に関 すること	A 数と計算	□	○
	B 図形	○	○
	C 測定	○	
	C 変化と関係(小学校)・関数(中学校)	□	○
	D データの活用	○	○

英語		小学校	中学校
全体			○
技能別平 均正答率	聞くこと		○
	読むこと・書くこと		○

小学校の国語では、全体として全国平均とほぼ同等の結果でした。前年度と比較し「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」について改善がみられました。一方で、言葉の特徴や使い方に関する事項「情報の扱い方に関する事項」が全国平均をやや下回っています。算数では、全体として全国平均とほぼ同程度の結果でした。前年度から「B 図形」と「D データの活用」について改善がみられました。「A 数と計算」「C 変化と関係」においては引き続き課題となっています。

中学校の国語では、全国平均とほぼ同程度の結果が見られました。「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を上回る一方で、単語の類別を理解することや漢字・語句を文脈に即して使うことなど、「言葉の特徴や使い方」については課題があると考えられます。数学では、「D データの活用」「B 図形」において全国平均を上回る結果となり、データ活用に関する知識や技能が定着していると考えられます。一方で、「A 数と計算」では、計算の処理はできているものの、説明する点に課題があります。

英語の平均 IRT スコアは全国平均とほぼ同等の結果でした。複数の出来事を整理して聞くこと、文章とグラフを関連付けて読むことについて成果が見られます。一方で、まとまりのある英文で表現することには課題があると考えられます。

（２）児童生徒質問紙調査の結果 ※は第３次教育振興基本計画の指標となる質問

<表の見方>

＊「当てはまる」と回答した全国の児童生徒数の割合と、市の児童生徒数の割合の比較

◎：上回る ○：ほぼ同じ □：下回る

◆学校での学習について

○ 主体的・対話的で深い学びの視点 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(38)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	○	◎
(39)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	○	◎
※(42)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	○	○

○ 個別最適な学びと協働的な学びの視点 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(41)	これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	○	◎
(46)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	□	◎

○ ICT 機器の活用に関する状況 「ほぼ毎日」と回答した児童

番号	質問項目	小学校	中学校
(35)	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器をよく使用している	◎	◎

小学校では、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」「課題解決に向けて主体的に取り組んでいる」と回答した児童の割合は、全国平均と同程度であり、中学校では全国平均を上回っています。一方、小学校では「友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むこと」が全国平均を下回っています。互いの考えを大切にし、協力しながら課題の解決に取り組むことを通して、仲間と話し合う活動をより充実させる必要があります。

ICT 機器の活用に関しては、小・中学校ともに授業で日常的に活用されていることがわかります。今後は、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する場面での効果的な活用を進めていきます。

また、小学校では国語・算数について、「授業の内容が分かる」「好き」「得意」と感じている児童の割合にも課題が見られました。学習への関心を高め、一人一人の理解を「分かった」「できた」という実感につなげる授業づくりが必要です。

◆家庭での生活や学習について

○ 学校や先生に対する思いに関する状況 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(9)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	□	◎
※(13)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	□	○
※(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか	□	○

○ 自己肯定感等に関する状況 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(8)	自分には、よいところがあると思いますか	□	○

※(19)	将来の夢や目標を持っていますか	☐	☐
(11)	人が困っているときは、進んで助けていますか	☐	☐
(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	☐	☐
(14)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	☐	☐
※(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	☐	☐

○ 家庭での学習に関する状況

※(4)(23)(25) 2時間以上と回答した児童生徒の割合

番号	質問項目	小学校	中学校
(4)	普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。	☐	☐
(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	☐	☐
(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	☐	☐

小学校では、「先生が自分のよいところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、昨年度に続き全国平均を下回っています。中学校では全国平均と同程度となっています。これまでも一人一人のよさや努力、成長を認めることを大切にしてきましたが、子どもたち一人一人が認められている、よさがあることをより実感できるよう、多様な他者と関わり合う集団活動の充実を図るなど、日々の子ども同士の関わりをより大切にしていきます。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」と回答した児童生徒の割合は全国と同程度でした。地域の活動やボランティアへの積極的な参加により、他者への思いやりや社会貢献意識を持っていることがうかがえます。引き続き、地域への愛着と誇りを育むふるさと教育を推進します。

平日及び土日の家庭学習時間については、小・中学校共に全国平均とほぼ同じ水準です。しかし、全国的に家庭学習の時間が減少する傾向にある一方で、SNSや動画視聴に費やす時間が大きく増加しています。子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、学校での情報モラル教育を推進するとともに、家庭と連携し、子どもたちの時間の使い方や、家庭学習の取り組み方について考えていく必要があります。

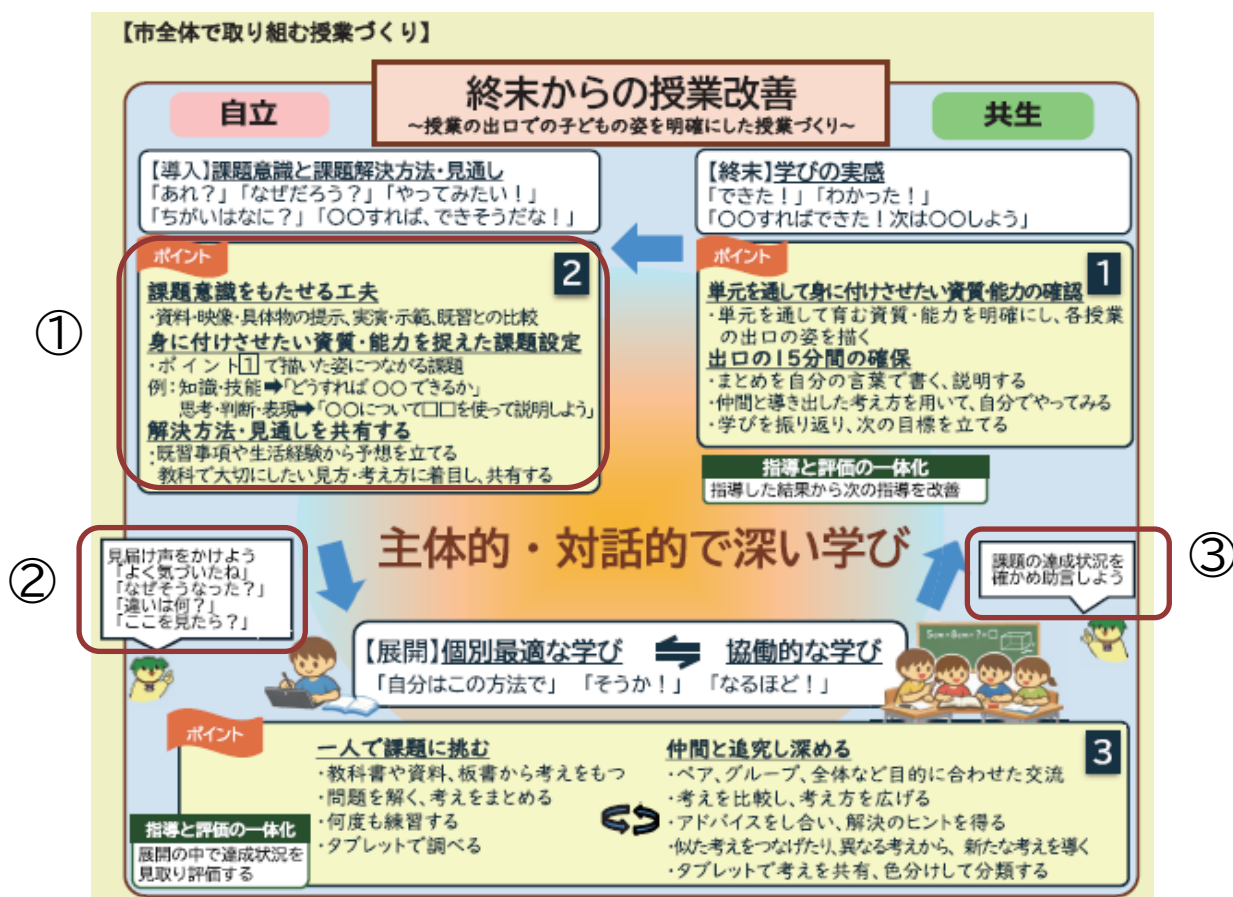
3 今後に向けて

◆市全体で取り組む授業づくり

【終末からの授業改善】

「授業の内容がわかる」その教科が「好き」「得意」と思える児童生徒を増やすために、特に次のことに取り組みます。

- ①授業の導入において、課題意識をもたせる工夫や、課題解決の見通しを工夫する
- ②学習状況を見届け、価値づける、学びを広げ深める問いかけをする
- ③一人一人の課題の達成状況を確認め、「できた」「わかった」の実感につなげる



具体的な取組

◆小学校

- 「やってみたい」と思える課題の提示や、ゴールまでの見通しがもてる導入
- 一人一人の見届けと価値付け
- 終末の時間の確保
- ・できた、わかった状況の確認
- ・NEW！ Gifu ウェブラーニング等の活用し、誤答についての確認



【学力向上推進委員】

- ・学力の向上に向けた授業改善を提案し、各学校実施
- ・NEW！ Gifu ウェブラーニング等の活用状況の把握と推進

◆中学校

- 「なぜだろう」「考えてみたい」と思える課題設定
- 仲間の考えから自分の考えを深め広げる
- ・意味や根拠を考え、仲間に説明する活動
- 「学びの実感」をもたせるための振り返り
- ・考え方の変化や身に付いた力を確認



【学力向上推進委員】

- ・学力の向上に向けた授業改善を提案し、各学校実施
- ・根拠をもって自分の思いや考えを表現する場の設定
- ・終末のめざす姿のために、終末の活動を明確化

